

夏の暑さから乳牛を守るマネジメント 「全農酪農セミナー」

トレスが軽減できると指摘した。初期投資は非常に割高となるが、今後の酪農牛舎として新設する場合はトンネル換気を勧められた。



全国農業協同組合連合会は、マイク・ブルーク氏(カンザス州立大准教授)を迎え、「夏の暑さから乳牛を守るマネジメント」と題して、家畜飼養管理講座J A全農酪農セミナー2011を開催。酪農家をはじめ農業改良普及員、獣医師、農協職員ら約八十名が参加した。

■暑熱対策に「ソーキング」?

アメリカでの暑熱対策事例として暑熱ストレス軽減のためのデータを説明し、牛に水をあてる「ソーキング」を頻繁に行い、その頻度と送風の観点等から、呼吸数の変化や体温の変化への影響、飼槽場所でソーキングによって乳量減少を緩和すると説明した。

乳量の変化には、搾乳待機場での冷却が最も有効であるとし、飼

料乾物摂取量に及ぼす影響には、飼槽場所での冷却が効果的とする中で、逆にその他に冷却場所が多くなり過ぎるとかえって乾物摂取量が落ちるデータもあると指摘。「飼槽に来れば涼しい」と牛に思わせることが重要と強調した。

■「気化パット」と「トンネル換気」

インディアアナ州北部では、牛舎内に空気を取り入れる際に空気を冷やす「気化パット」を利用して、牛舎内の温度を下げる方法があるが、その冷やした空気を換気扇で牛舎にあてることで、より一層暑熱対策の効果を得ることができ

る。また、推奨されている「トンネル換気」は屋根が低く、空気の流れが速いことから、サシバエ対策にも有効とされ、ソーキングも併せて行うことでさらに牛へのス

■日本にあった

「カウコンフォート」を?

日本では、細霧システムが普及しつつあるが、高温多湿な環境下では、かえって乳房炎のリスクが上がるのが指摘される中、一昨年、昨年と有効利用されている農家では、牛舎内の温度は下がり、一定の効果が得られている。暑熱対策としてカウコンフォートのみならず、飼槽の管理、飼料の品質、栄養面からも考えることが必要であると締めくくった。

■質疑応答

「水の温度に関して、夏場は冷たい水の方がDMIが増えたが、経済効果としてはメリットがなかった」との質問に対して、十、三十℃に保ち供給されることが望ましいとアドバイスをされた。

災害時等のリスク管理を考える 全酪連購買・畜産・指導担当者会議



会議の開会にあたり徳永幸男支所長(全酪連大阪支所)は、「TPP参加に向けて動き出したが、引き続き反対運動を行う。キーワードは『酪農基盤の強化』。このままではジリ貧となって、衰退の一途を辿ることになる。北海道からの資源を頼り過ぎるのは間違いであり、ホルスタインも減少傾向の中、目先の利益を考えずに計画的な種付けの啓発が重要。広酪の「夢の実現3S」等の取り組みへの支援に力を入れて行きたい。先日、後継者支援策などへの要望を受けたところであり、他の会員においても、様々な要望を全酪連にあげていただきたい。酪農業発展の為に知恵を出し合っていこう」と挨拶。

小谷購買部長(全酪連)からは「安定基金情勢は、第4四半期が最大五百五十円の補填となるが、価格は下がって基金の発動はないという予測」を説明された。

その他、酪農情勢や全酪連大阪支所管内の購買事業、畜産事業、指導事業等が説明された。

講演会

「震災・原発事故・口蹄疫から考える」



(講演する全酪連久保園室長)

久保園弘室長(全酪連購買部酪農生産指導室)が、東日本大震災の例を挙げ、災害時の対処方法に対するリスク管理の重要性を説明された。

具体的には、停電時の基本対応や復旧見通しが立たない場合の対応など、非常時に備えて発電機を持つか、何時でも借りることの出来る体制を整えることを勧められた。

九州では、台風後に停電が続くことから、発電機のリース対応がある。長期間復旧の目処が立たない場合は、給水や飼料の制限方法、牛への負担が如何に軽く出来るか等がポイントとなり、普段から考えていなければ対応が難しいことが指摘された。

その他、放射性物質の特性なども併せて研修を受け、研修後は参加者らと情報交換し懇親を深めた。